



第44号
発行
青森県更生保護女性連盟
青森市長島1丁目3-28
プラザあすなる内
TEL 017 (734)6211



献血は、一人でできる ボランティア

青森保護観察所 所長 本平 利幸

私の生活習慣の一つに「献血」があります。青森県に来て初めて発見したのですが、青森赤字の建物の垂れ幕に「献血は、一人でできるボランティア」と書かれており、献血も立派な社会貢献であることを知りました。

献血は、若い頃から関心はあったのですが、人より血管が細く、当時は人の倍以上時間が掛かることが嫌になり、数回で止めてしまいました。

その後、50歳ころに再開してみたところ、特に血管が太くなったわけではないものの、人と時間が変わらないことが分かり、以後、月に一回のペースで献血を行っています。

目的の一つは、数日後に血液検査の結果が送られてくるので、中性脂肪やコレステロール値、毎日のようにアルコロールを摂取する者にとつては、γ-GTP（肝機能）などの数値を見ることが健康チェックができ、その数値を見ながら改善策を考えます。



平成30年7月 青森マラソンに更生保護のTシャツを着て参加した本平所長

献血ありがとうございます

02-70598222

モトヒラ
トシユキ

献血回数：100回 O+

H30.11.10	血漿	青森県	1
H30.11.25	血小板	青森県	1
H30.12.09	血漿	青森県	1

【献血方法別の次回献血可能日】

200mL	H30.12.23
400mL	H30.12.23
血漿	H30.12.23
血小板	H30.12.23

表彰・顕彰：61 金色 A30.12.09
青森県赤十字血液センター
017-741-1511

■次回献血の際は、このカードを必ずご持参ください。
■献血のお問合せ等は、上記赤十字血液センターへお寄せください。

年余で「還暦」となり、年齢を重ねると血管も弱くなり、いつまで献血ができるか分かりませ

また、条件もあり、例えば、私のように血管が細く、高血圧で投薬を受けていたり、また、献血センターの人の話だと、趣味のフルマラソンなど激しい運動をすると、足裏の血液（ヘモグロビン）が破壊され、数値的に実施できないこともあります。

餅つき会は、入所者が他人との交流に慣れ、円滑な社会復帰につなげてもらうと昨年からはじめ、今年で2回目。白やね、もち米などは同OB会の会員らを持ち寄った。

青森地区保護司会、青森地区更生保護女性会の会員らが「よいしょ」の掛け声とともに力強く餅をつき、

青森

餅つき会 笑顔咲く

更生保護施設
入所者を激励



つきたての餅を手早く丸める参加者

入所者らは膝を並べてあん 仕立てた後、けの汁や漬物ころ餅やきなこ餅、汁粉に などと一緒に味わった。入所者からは笑みがかほれ「楽しい」「おいしい」と話しながら会員らへ感謝を伝えていた。

同女性会の神和子会長（80）は入所者に対して「今回つきた、のどしのいい餅のように社会に溶け込み活躍してほしい」と語った。

（米山竜一）

ん。幸い、身内で輸血を受けた者はなく、その大切さを自ら実感したことはありませんが、「自分の見えないところで、誰かの役に立っている」という気持ちで続けていきたいと思っています。

ちなみに、平成30年12月9日、節目である「献血回数100回！」を青森県で迎えることができました。



地域社会と共に 歩む更生保護

青森県更生保護女性連盟

会長 神 和子

誰もが心豊かに生きられる住み良い明るい社会の実現を目指し、県内各地区で様々な活動を展開している。更生保護女性会員の皆様に心より敬意を表します。

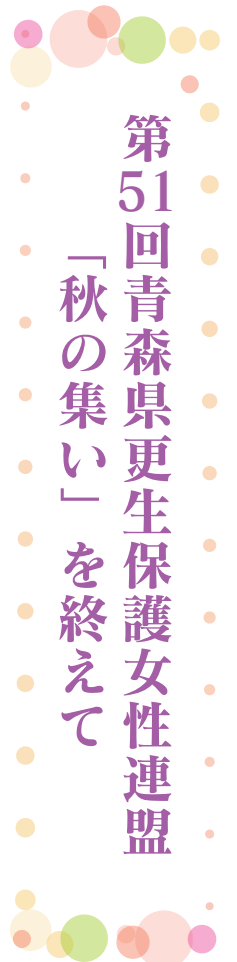
人は誰でも人間らしく生きたいと願っています。更生保護は心ならずも非行、犯罪に陥った人が再び社会の一員として立ち直りを助けようと言う制度です。そして様々な支援によって多くの人が立ち直っています。

私たちは更生保護に軸足を置きながら地域の関係団体と連携を進め、さまざまな活動を展開しています。常に地域の課題に積極的に取り組み、地域を大切にし、もう一度生き直そうとする人を受け入れ、それを地域社会の文化として、これからも益々明るい社会づくりをめざして被害者を出さない、加害者を出



平成30年10月 「みんなのつどい」で函館地区保護司会岡会長に花束を渡す 神会長

さない社会を築くことを目標にします。そして皆がやさしい人になるように念じて努力して参りたいと強く思います。



第51回青森県更生保護女性連盟 「秋の集い」を終えて

東北町地区更生保護女性会

会長 乙供 洋子

平成30年10月13日(土)東北町コミュニティセンター「未来館」に於いて開催された「秋の集い」は天候にも恵まれ県内各地区から会員500名が参加して下さいました。大過なく無事に終える事ができたのは皆様方のご協力の賜と感謝しております。大会終了後多くの方々から「素晴らしかった」「感動した」等の電話やお手紙をいただき身に余る光栄と会員ともども喜びに浸った次第です。

又地域の婦人会の方々も「ス Copp 三味線」「ナニヤドヤラ」の踊りで大会に花を添えてくれました。大会を無事に終えるには会員が心を一つにしてと呼びかけそれにこたえてくれました。まず実行委員会を立ち上げ実行委員の人達には責任者として活動してもらい何回となく打ち合わせ会をもちました。役



割分担表を作り全会員にそれぞれの係についてももらいました。全会員が自分の役割を責任をも

て果たしてくれたと確信しております。

又役場福祉課の職員の皆さんには会場の配置図、駐車場の整理等ご協力をいただき感謝でございます。

当地区の「秋の集い」は会員みんなの力が花開いた大会であったと思っております。

今後は更生保護の心を広め次代を担う青少年の健全な育成と温かな人間愛をもって犯罪や非行をした人達の立ち直りを支え、明るい社会づくりのため少しでも貢献できるよう頑張っております。

日本更生保護女性会員 中央研修に参加して

大鰐地区更生保護女性会 副会長 山本 晴子
弘前地区更生保護女性会 副会長 山本 喜久

平成三十年十月二十三日から二十五日迄「アルカディア市ヶ谷私学会館」において「地域を編む」をテーマとし、全国から100名が参集しました。一日目は、日本更生保護女性

連盟会長千葉景子氏の講話「地域を編む」から始まり、続いて「地域を編むためのコミュニケーション」をテーマとしてNPO法人日本ファシリテーション協会フェロー鈴木まりこ氏の講義及び



東奥日報
紙面より

功績をたたえ表彰される会員
に尽くした会員12人の功績をたたえた。
法務大臣感謝状を受けた乙供洋子さん(東北町地区)、水木トミ子さん(大鰐地区)と、日本更生保護女性連盟会長表彰を受けた3人を報告。青森保護観察所の本平利幸所長、神会長が107人に表彰状、感謝状を贈り、被表彰者を代表して蛸名茂子さん(東北町地区)が「社会に役立つことを喜びとして努力を積み重ねていきたい」と謝辞を述べた。
乙崎啓子さん(同地区)が「女性として母として温かな心と優しく明るい社会の実現に積極的に寄与することを誓う」と宣言文を読み上げ、参加者全員の手で採択した。(藤島玄)

ワークショップがありました。「つなぐ」「であう」「つたえる」「つくる」「まきこむ」「うけとめる」とは、たずさわる組織をありのまま受け止めてみよう。自分と価値観が違う時は、自分の考え方を保留してみよう。先輩の言葉が大事「そうではありません」と云わないで、「そういうこともあるわね」との言葉が大事。
「更女は、慈しみの心がなければいけない」との事でした。保護司の怪異を増やすこと、B



挨拶する日本更生保護女性連盟 千葉会長
(日更女ホームページより)

S・民生委員との交流を深めることだそうです。

二日目の講義は、武蔵野大学人間科学部社会福祉学科 教授 熊田博喜氏による「地域での支

えあいく新しい地域のつながりづくり」で、初日と同じような内容でした。その後は、六人グループ・四



中央研修風景(日本更生保護女性連盟ホームページより)

人グループになり、それぞれメンバーを替えながら話し合い、色々な人との出会いができました。「更女ってなあに?」知らない人が多くまた住民の力でお子をお叱る見守り、例えば子供を叱ると親がにらみつける、その親を育てるのは、私達で、私達の責任だということでした。色々な人たちと出会え、また色々勉強になりました。帰りは他県の人たちと楽しいひとときを過ごして参りました。勉強させていただき、有り難うございました。

東北研修に参加して

平成30年度東北地方更生保護女性会員研修会 東北地方更生保護女性連盟結成50周年記念式典

十和田地区更生保護女性会 会長 石田 美津子

平成30年9月26・27日、秋田市「秋田ビューホテル」に於いて、東北各県から会員約130名参加し、東北地方更生保護女性会員研修会が開催されました。開会にあたり東北地方女性連盟大田会長・東北地方委員会幸島委員長の挨拶があり、その後「地域との連携・協働活動推進地区」青森・秋田・山形の選ばれた三地区から活動報

告の発表、続いて各分科会に分かれて研修討議「地域から、より頼られる更生保護女性会を目指して」を主題のもと第一分科会副題「東日本大震災から7年を経過した今、更に大規模自然災害が続く現状を踏まえた具体的な更女活動について」第二分科会副題「子どもたちの健全育成を支える具体的な活動、学校との連携について」第三



東北研修会・記念式典で

分科会副題「更生保護女性連盟の運営、会員確保について」第四分科会副題「更生保護女性会綱領等の再確認を踏まえた、会員の意欲向上や職見を深めるための効果的な研さん、活動実践の在り方等について」各県連盟会長が助言者で研究協議が行われました。分科会ごとの記念撮影、

そして、限られた時間の中でまとめられた発表に東北委員会幸島委員長の講評を頂きました。各地区取り上げる課題は違っても、各関係団体と連携協力し今後の活動を続けていく大きさを学びました。2日目、東北地方女性連盟結成50周年記念式典が開催されました。これまで功績のあった方々に贈られる東北地方更生保護女性連盟会長特別表彰には、青森県から

給食奉仕活動を体験して

三沢地区更生保護女性会 会長 柏崎 美江

あすなる給食奉仕活動実施要望書が届いた時、思わず「ようし行くぞ」と大きな声を出してしまいました。少年院が開院してから更生保護支援活動が見出せずだった所でした。衣類等提供の時もそうでしたが今回の奉仕活動も即、行動一番のりで参加致しました。

腹も心もほっこりしたとの感想文に、私達何よりもやりがいを感じております。会員研修で報告した

献立を決めるのに少し苦慮しましたが、温かい懐かしいメニューを考えました。配膳を手伝ってもらい、長くセツトしたテーブルに女性会が所々に入って楽しく会話もできました。後日、彼らの感想文に行って良かったし、又ぜひ行きたいし、この活動を長く続けてほしいと思います。感想文には、お愛情を感じ、家族を思い出し、お



奉仕活動の皆さんと
当日のメニュー

所、皆、目頭をおさえないながらも参加申し出ているところです。

永年、犯罪予防、社会を明るくする運動等活動を続けて来ましたが、再犯数が増えていきます。心ならずも罪を犯した人が再犯することのない様に、その人の心に寄りそい変えられたらとこの活動をしてみて感じ想っているところなんです。この活動を考えてくれた方に感謝、感謝です。ありがとうございます。

富浦さんが金色有効章受賞

七戸

富浦さんが日赤表彰3人目の金色有効章を受賞した。小又町長は銀色有効章が認められ、日本赤十字社から金色有効章を受けた七戸町の富浦さん(86)が10月31日、町役場を訪れ、銀色有効章を受けた小又町長と懇談した。同町で金色有効章を受けたのは富浦さんで3人目。富浦さんは「仲間がとても良い人たちで、助け合っただけでなく、自分たちも元々、富浦さんは、1980(昭和55)年に七戸町赤十字奉仕団に入団した。同奉仕団の元となった更正保護女性会から数えると50年近く活動に



日本赤十字社から金色有効章を受けた富浦さん(中)と銀色有効章の小又町長(右)、左は盛田委員長

と町長を表敬。富浦さんは「自分だけで活動できるものではなく、仲良くなると喜びを語った。(下館悠々)

新会長ご紹介



新会長として

中泊地区更生保護女性会 生保護女性会

40回目の総会で会長に推され、間もなく1年を迎えようとしております。現在の会員は35名です。

会員となつての年数も短く、会長として力不足な私ですが、前会長の指導を受け、会員さん達の協力を得ながら事業を進めることが出来ております。

会には女性保護司の加入が慣例となつており、保護司会との連携

中泊地区更生保護女性会

会長 古川 節子

が良好で、事業をスムーズに行う事が出来ております。

保護司会との合同研修会は毎年行っており、会員が楽しみにしている事業の一つです。

県の総会等に積極的に参加し、各地区の会員と情報交換したいと思っております。

地域に求められる活動・支援を会員が楽しんで行う事が出来るよう努めて参ります。

宜しくお願い致します。



弘前地区更生保護女性会

中村 雪子

更生保護女性会に参加してから、あつという間に30有余年の歳月が流れました。

その間、激動の昭和から平成へと移り変わり、さらに本年の5月には新たな元号となろうとしており、社会の変化とともに、更生保護活動も大きく変化いたしました。

これらの更生保護の活動は、その成果が、すぐにあらわれるものではありません。

しかし、犯罪のない明るい社会を築くためには、幼少期の頃から、こつこつと善悪を教え、色々な人と接することにより、犯罪は少なくなるものと考えます。

少子高齢化に伴い、少年より高齢者の犯罪が増加傾向にあり、その理由は、孤独によるものと言われています。同様に、少年非行も家庭や学校などによる孤独が大きな原因ではないでしょうか。

地域コミュニケーションが希薄化する今こそ、地域に根ざした更生保護活動が最も重要なのではないのでしょうか。

私はこれからも、各団体の皆様と連携しながら、地域における声掛けおせっかいおばさんとして、明るく楽しく元気よく、活動を続けてまいります。

活動をとおして、たくさんの方に出会えたことが何よりの財産であります。今後、たくさんの人と出会い、財産を増やすため、積極的に活動に携わりたいと思っております。まだまだ老けこんではられません。

青少年非行防止活動、社会を明るくする運動、明るい選挙推進運動、防犯弁論大会、社会貢献活動、就労支援活動、愛の広場レクリエーションのつどい、茜まつりボランティア、赤い羽根共同募金活動など、多種多様でありかぞえあげればきりがありません。

平成30年受章者名簿

おめでとうございます

法務大臣感謝状

(東北町) 乙 供 洋 子
(大 鰐) 水 木 トミ子

日本更生保護 女性連盟会長表彰

(板 柳) 斎 藤 ヤツエ
(青 森) 今 村 亜 輝
(五所川原) 千 葉 俊

東北地方更生保護 委員会委員長表彰

(三 戸) 関 向 たづ子
(七 戸) 盛 田 恵津子
(野辺地) 坂 本 尚 子
(三 沢) 武 井 ツセ
(東北町) 蛇 名 茂 子
(六 戸) 鈴 木 愛 子

東北地方更生保護 女性連盟会長表彰

(青 森) 石 川 洋 子
(青 森) 成 田 京 子
(青 森) 木 村 てい
(弘 前) 野 呂 秋 江
(五所川原) 小 島 きみゑ

青森保護観察所長 感謝状

(五所川原) 熊 谷 雅 子
(八 戸) 福 島 美 登 利
(八 戸) 杉 本 エミ
(黒 石) 木 村 那 智 子
(三 戸) 武 士 沢 厚 子
(三 戸) 山 内 小 百 合
(平 内) 浜 中 ミヨエ
(七 戸) 附 田 尚 子
(七 戸) 和 田 禮 子
(十和田) 竹 洞 トヨ
(大 鰐) 佐 藤 イサ
(む つ) 高 橋 英 子
(む つ) 橋 本 秀 子
(おいらせ町) 小 向 きわ
(中泊町) 鳴 海 君 子
(鯔ヶ沢) 一 戸 とも子
(野辺地) 松 橋 恵 子
(三 沢) 中 塩 弘 子
(東北町) 下 内 さつ
(五 戸) 竹 内 耀 子
(板 柳) 長 内 悦 子
(つがる市) 渡 邊 テルヨ
(鶴 田) 澤 田 なよ
(六 戸) 下 田 孝 子
(おいらせ町) 倉 内 敏 枝
(青 森) 野 澤 絹 江
(青 森) 高 村 美 和 子
(青 森) 松 浦 睦 子
(青 森) 倉 光 稲 子
(弘 前) 金 子 久 子
(五所川原) 浜 田 悦 子
(五所川原) 高 橋 京 子
(五所川原) 神 整 子
(五所川原) 三 浦 良 子
(五所川原) 杉 野 京 子
(八 戸) 富 岡 節 子
(八 戸) 小 橋 てる子
(黒 石) 泉 ノリ
(三 戸) 西 館 トシ
(三 戸) 岡 田 壽 子
(平 内) 工 藤 梅 子
(七 戸) 岡 村 千 鶴 子
(七 戸) 作 田 美 知 子
(十和田) 竹 ヶ 原 トキエ
(大 鰐) 佐 藤 由 美 子
(む つ) 花 瀬 ちる子
(む つ) 木 村 遣 子
(おいらせ町) 倉 内 敏 枝

青森県更生保護 女性連盟会長表彰

(中泊町) 荒 関 ノブ
(鯔ヶ沢) 三 ッ 谷 イツ
(野辺地) 荒 屋 幸 子
(三 沢) 中 坪 あい
(東北町) 蛇 名 和 子
(東北町) 山 田 まき子
(東北町) 乙 崎 啓 子
(五 戸) 浪 打 幸 子
(板 柳) 横 山 淳 子
(つがる市) 柴 谷 恵 美
(鶴 田) 中 村 千 鶴 子
(六 戸) 杉 山 智 子
(青 森) 須 田 智 子
(青 森) 中 嶋 紀 子
(青 森) 小 原 千 鶴 子
(青 森) 中 村 邦 子
(弘 前) 久 保 田 節 子
(五所川原) 千 田 緋 都 美
(五所川原) 黒 瀧 悦 子
(五所川原) 藤 田 末 子
(五所川原) 逢 坂 厚 子
(五所川原) 小 野 真 弓
(八 戸) 及 川 洋 子
(八 戸) 西 野 順 子
(黒 石) 三 浦 ツエ
(三 戸) 根 立 朋 子
(三 戸) 坂 本 栄 子
(平 内) 荒 内 辻 子
(七 戸) 平 野 重 子
(七 戸) 乙 部 優 子
(十和田) 大 沢 政 子
(大 鰐) 清 野 愛 子
(む つ) 関 歌 子
(む つ) 佐 藤 美 知 子
(おいらせ町) 風 穴 由 紀 子
(中泊町) 伏 見 ユキエ
(平 川) 三 浦 千 恵 子
(平 川) 福 士 智 子
(鯔ヶ沢) 外 崎 節 子
(野立地) 横 濱 宮 子
(三 沢) 類 家 トキ
(東北町) 蛇 澤 栄 子
(東北町) 土 井 ひろ子
(東北町) 新 山 トワ
(五 戸) 遠 藤 加 奈 子
(板 柳) 成 田 禎 子
(つがる市) 三 戸 恵 子
(鶴 田) 蒔 苗 愛 子
(六 戸) 佐 藤 貞 子

第68回社会を明るくする運動 作文コンテスト

青森県更生保護女性連盟会長賞「さくら賞」 受彰作品



相手の気持ちを考える

板柳町
立小阿弥小学校
6年

神山 亜瑚
(かみやま あこ)

私の小学校でリトルJUMPの委嘱
状交付式がありました。警察署長さん
から「非行や犯罪のない楽しい小阿弥
小学校になるようにがんばって下さ
い。」というお話がありました。

最近、テレビや新聞のニュースを見
て、犯罪や非行が多いなあと思いま
す。どうして、犯罪や非行が起こる
のだろうか。それは、全てが正しい人
はいないからだと思います。少しでも
犯罪や非行を減らすことはできないだ
ろうか。

いつもお母さんが「相手のことを考
えて行動しなさい。」と言います。確
かに相手のことを考えて行動すれば、
犯罪や非行が減るかもしれません。前
にこんなことがあります。妹とボー
ルの取り合いでケンカになりました。
その時、(妹は本当にボールで遊びた
そうだな、自分は今じゃなくてもいい

か)と思い、ボールをゆずってあげま
した。いつもならたたく合ってすこ
いことになるのに、すんなりと仲直り
できました。妹も「ありがとう。」と、う
れしそうに言ってきました。それを聞
いて、何だかいい気分になりました。
いつも妹とケンカになると、決まって
私に向かつて、お母さんが「相手のこ
とを考えて行動しなさい。」と言いま
す。(どうして私だけに言うの)と腹
が立っていたけれど、何だかお母さん
の言ってる意味が分かったような気が
しました。

犯罪や非行のニュースを聞くと、絶
対に許せないと思います。でも、相手
の気持ちを考えるということは、犯罪
や非行を犯した人の気持ちも考える必
要があると思います。私は今まで犯罪
や非行を犯した人の気持ちを考えたこ
とはありませんでした。よく考えると
犯罪や非行を犯したからといって、そ
の人の人権まで否定することはできな
いと思います。その人にも親や家族が
います。学校にも通っていて私達と同
じだったはずです。もし、心許せる友
だちがいたり、他の人の気持ちを考え
られるように育ったりしていたら、犯
罪や非行を犯さなかつたかもしれませ
ん。

一人一人がみんなのことを気づかい

思いやり、他人の立場で考えて行動で
きたら犯罪や非行は減ります。そう考
えると、学校で友だちとどのように接
するのいいのかわかっています。
家庭や学校で相手の気持ちを考えて
行動することが、犯罪や非行を少なく
することにつながります。私は、お母
さんの「相手のことを考えて行動しな
さい。」の言葉を絶対に忘れずに、家
族や友だちを大切にしていこうと思
います。



平成30年度 県連盟主要事業報告

平成30年4月1日～平成31年3月31日

月	日	行 事	場 所	出 席 者
4	17	三役会議及び会計監査	あすなろ	三役・監事 (9人)
	25	十和田地区総会	十和田市民文化センター	副会長 (乙供) 会長
	25	おいらせ地区総会	おいらせ町東公民館	会長
5	8	東北更女連盟委員会	東北委員会 (仙台)	会長・副会長 (塩原)
	10	黒石地区総会	黒石市勤労青少年ホーム	副会長 (塩原)
	11	六戸地区総会	六戸町文化センター	副会長 (乙供)
	22	マナー教室	少年鑑別所	会長・柿崎・進藤
	25	県社明推進委員会	アスパム	会長・各地区会員
	28	県更女連盟総会	アラスカ	各地区会員
6	4	日更女協議会	法曹会館 (東京)	会長
	5	日更女の集い	有楽町朝日ホール	受彰者 (5人)
	23	県BBS連盟総会	アウガ	事務局長 (柿崎)
7	8	矯正展	青森刑務所	各地区会員
	23	三役会議	あすなろ	6人
	30	県更女連盟理事会	あすなろ	会長・地区会長・事務局
8				
9	26~27	東北更女連盟研修会	秋田ビューホテル	会長・各地区15人
10	12	マナー教室	少年鑑別所	会長・柿崎・進藤
	13	第51回秋のつどい	東北町「未来館」	各地区会員 (600人)
	22	更女新会員研修	保護観察所	各地区会員 (51人)
	23~25	更女会員中央研修	アルカディア市ヶ谷	大鱈 (山本晴子) 弘前 (山本喜久)
11	12~13	県更女連盟研修会	浅虫温泉「柳の湯」	各地区会員 (65人)
	20	県更生保護大会	藤崎町	各地区会員
	21	マナー教室	少年鑑別所	会長・柿崎・進藤
	27	東北再犯防止シンポジウム	岩手県民情報交流センター	会長・柿崎
12	18~19	更女会組織強化研修	法務省浦安総合センター	副会長 (塩原)
1				
2	1	第1回東北更女連絡会議	仙台市	会長
	21	保護司・BBS・更女研修会	保護観察所	会長・柿崎
3	7	マナー教室	少年鑑別所	会長・柿崎・進藤
	13	県更生保護関係団体連絡協議	アスパム	会長・柿崎・塩谷
	22	第2回東北更女連絡会議	仙台市	会長
	29	青森保護観察所職員送別	保護観察所	会長ほか事務局

代表 会長 神 和子
 編集委員 金 多恵子
 塩 原 誓 子
 今 井 百合子



ひとはみな
 生かされて
 生きていく

今回から紙面も変わりました。カラー写真、文字も大きく、より読みやすく、親しみやすく致しました。
 これからも充実した「更女会便り」を目指していきたいと思っております。今後ともご寄稿、ご意見等よろしくお願い致します。(T・k)

